

令和元年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

御嶽神社のご祭神

御嶽神社は「おいぬ様」の神社として広く知られていますが、主祭神の「櫛真智命」くしまちのみことをご存じの方は少ないと思います。神名の多くは、古事記や日本書紀または、歴史上偉業のあった人物などですが、櫛真智命はそうした一般的な名前でないため、あまり知られていない神様です。そして、この祭神が祀られているのは、武蔵御嶽神社が「式内社」しきないしゃと考えられているからだと思われま

す。『延喜式』えんぎしきという律令の施行細則を集大成した全50巻の書物があり、延喜5年(905)に編纂がはじまり、延長5年(927)に完成しました。この巻の九・十は神名帳じんみょうちょうといわれ、ここに記された神社を式内社といいます。神社は地域ごとに記され、多摩地区には以下の八社が記載されています。

1. 阿伎留神社(あきる野市)
2. 小野神社(府中市・多摩市)
3. 布多天神社(調布市)
4. 大麻止乃豆乃天神社おおまとのつのみあまつかみやしろ(稲城市・青梅市)
5. 阿豆佐味天神社(瑞穂町)
6. 穴澤天神社(稲城市)
7. 虎柏神社(調布市・青梅市)
8. 青渭神社(調布市・青梅市)

しかし、時代の経過とともに、ここに記された神社が現在のどの神社に当たるか、確定出来ない所も多く、そうした神社を論社ろんしゃといい、明治になって神名帳に記された社名に変更した神社も多くあります。多摩地区では、阿伎留神社、布多天神社、阿豆佐味天神社、穴澤天神社は式内社とされていますが、根ヶ布の虎柏神社は青梅市のほか、調布市佐須町にもあり、沢井の青渭神社は、同じく調布市深大



寺元町にもあります。そして、大麻止乃豆乃天神社が御嶽神社といわれますが、稲城市大丸の大麻止乃豆乃天神社などが論社とされています。話が少しそれましたが、この、大麻止乃豆乃天神と櫛真智命の関係は、『延喜式卷第九』の十市郡とおちのこうりに「天香山坐櫛真命神社」とあり、元の名は大麻等乃知神とも付記されているので、両神名は同一と考えられます。

次に、櫛真智命はどのような神様かという、クシは「奇し」で 奇異な・すばらしいの意。マは美称・強調。チは知能・知識・知恵を表し、何とも奇異な知識を持った神様ということになります。神事・占いを司る神様で、御嶽神社で1月3日に「太占祭」が行われる由縁です。『古事記』で天照大神が天岩屋に籠もった時、「天児屋命、布刀玉命ふとまにさいを呼び、天香山の真男鹿あめのこやねのみこと ふとだまのみことの肩を内抜きに抜きて、天香山の天波波迦あめの は は かを取りて、占合まかなはしめて」とあり、神様たちが迷われた時に行う太占の方法が記されています。太占は雄鹿や猪の右肩甲骨をハハカの木を燃していぶり、ひび割れ具合で占います。ハハカとは上溝桜のことで、大嘗祭で悠紀殿・主基殿選定の亀卜は、アオウミガメの甲羅を鹿と同じようにいぶるため、木は上溝桜が使われました。ただし、御嶽では桜がご神木のため、檜や杉が使われています。ここに出てきた天児屋命・布刀玉命・櫛真智命は、皆同じ神といえますが、櫛真智命として祀られる神社は少なく、度々出てきた奈良県の大和三山(畝傍山・耳成山・香具山)香具山の北麓「天香山神社」、長崎県対馬の「太祝詞神社ふとのりと」に稲城市の「大麻止乃豆乃天神社」くらいです。

御嶽神社は、家内安全・商売繁盛・五穀豊穰の神として、江戸中頃より、庶民の信仰を集めました。特に農家の方にとって作柄は重要で、太占祭では主要 25 品目の農作物の吉凶を占っています。近年でも、その作柄から長期予報などを読み解く方もいます。また若い方には、昭和初期の文言で記されたおみくじは人気が高いようで、これも、櫛真智命によるものです。また、御嶽神社の石段脇には「大麻止乃豆乃天神社」と記された江戸後期の石碑が建っていますので見つけて下さい。



(文責 須崎 直洋)